

愛媛の救急医療を守る147万人の県民運動

あい きゅう いち・よん・なな うん どう
(愛救147運動)



レスちゃん

マリンナ

赤ちゃん

山嵐

ためぎ

目子ちゃん

ららなり

愛媛の医療を守る『7人のDr.』

県内の救急医療の受診実態

【二次救急医療機関での救急患者受入実態調査】

1. 調査依頼先 県内の全ての救急告示医療機関(60機関) 回収率 100%
2. 対象患者 診療時間内の救急車で搬送患者、診療時間外の全ての患者
3. 調査期間 平成20年11月1日～11月30日(30日間)
(平成20年度からの3年間、毎年11月に実施)

4. 調査項目

受診の時間帯(2時間単位)

受診者の属性(年齢、性別、住所)

来院形態 (救急搬送、自力:walk-in、転院搬送 他)

主な受診科

主な傷病 傷病大分類による区分

症状の程度(消防統計と同様の区分)

- ・軽症 …… 入院を要しないもの
- ・中等症 …… 生命の危険はないが入院を要するもの
- ・重症 …… 生命の危険の可能性のあるもの
- ・重篤 …… 生命の危険が切迫しているもの
- ・死亡 …… 初診時死亡が確認されたもの



たかちゃん

【医療圏別の患者受入状況】

県内受入患者総数 … 16,362人(H20.11 1ヶ月間)

医療圏	宇摩	新居浜 ・西条	今治	松山	八幡浜 ・大洲	宇和島	計
患者数	1,459	2,368	2,388	6,900	1,244	2,003	16,362
構成比	8.9	14.5	14.6	42.2	7.6	12.2	100.0
救急告示病院	4	12	13	17	9	5	60
患者数/病院 (A)	365	197	184	406	138	401	273
(A) 大洲・八幡浜を 1とした場合	2.64	1.43	1.33	2.94	1.00	2.90	

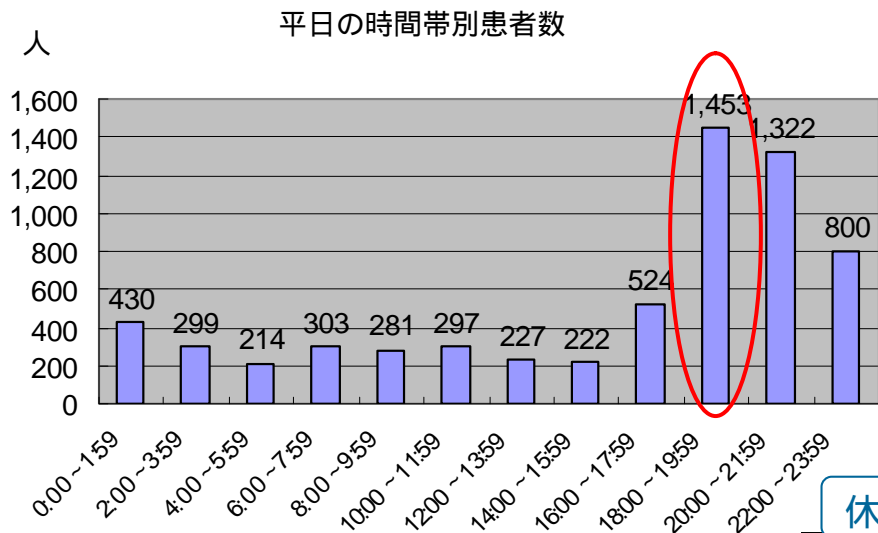
- 医療圏別では、「松山圏」の患者数が最も多く、全体の4割強を占めている。また、救急告示病院当たりの患者数も「松山圏」が最も多く、次いで、「宇和島圏」、「宇摩圏」の順となっている。
- また、病院当たりの患者数では、単純比較で、「松山圏」や「宇和島圏」と最も少ない「八幡浜・大洲圏」との間で約3倍の差がある。



赤ちゃん

【時間帯別患者数】

平日・時間外は午後6時～10時の患者が最多



平日・時間外(18:00以降)の受診動向を見ると、「18:00～21:59」の時間帯の患者が最も多く、その後も深夜零時頃まで、多数の患者が来院している。



赤ちゃん

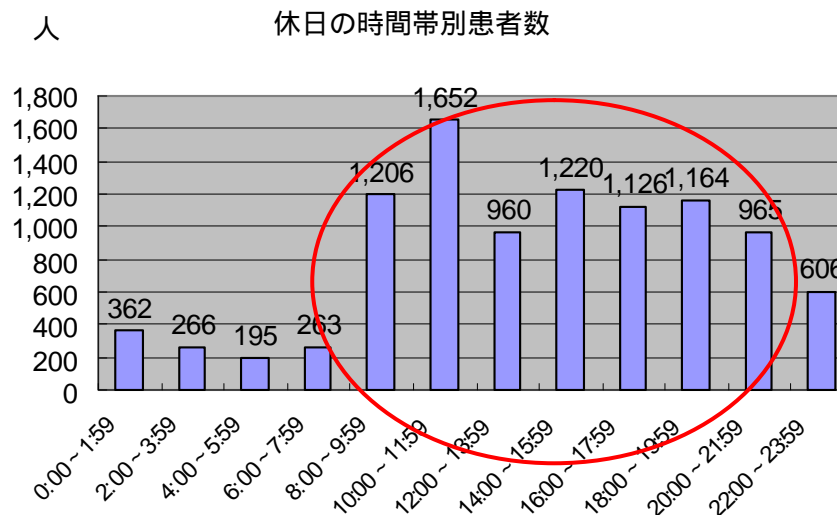
平日・日中の患者は、主として救急車による搬送患者。

休日は、午前8時～午後10時頃まで絶え間なく来院

休日の受診動向を見ると、午前8時以降、日中から深夜10時頃まで、多数の患者が、間断なく来院している。

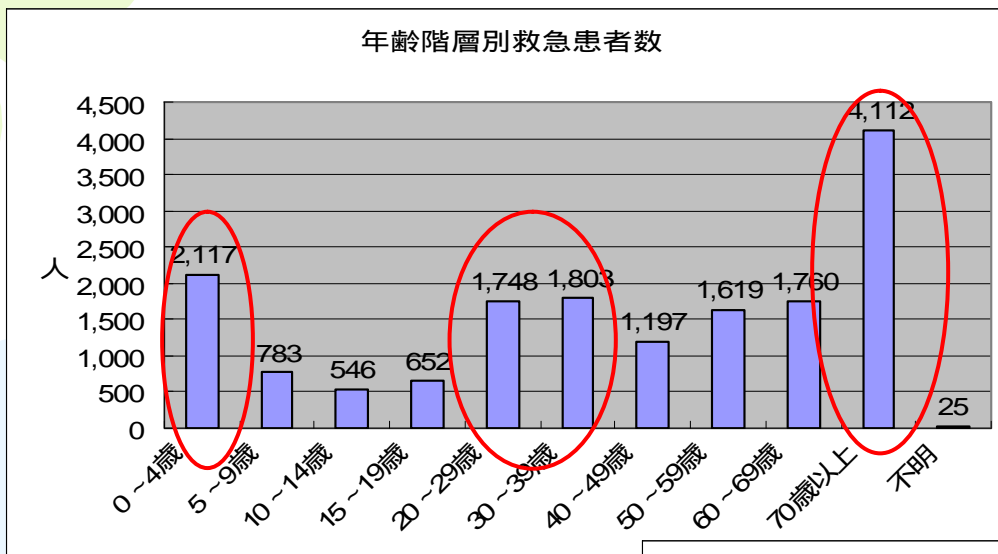


うらなり



【年齢階層別受診動向】

70歳以上の高齢者層が全体の1/4を占め最大



- ・「70歳以上」の高齢者層が25.0%を占め最も多い。
- ・次いで、「0~4歳」の小児が13.1%となっている。
- ・また、「20~29歳」、「30~39歳」の比較的若い勤労者層もそれぞれ1割程度占めている。



母子だいち

【来院形態別受診動向】

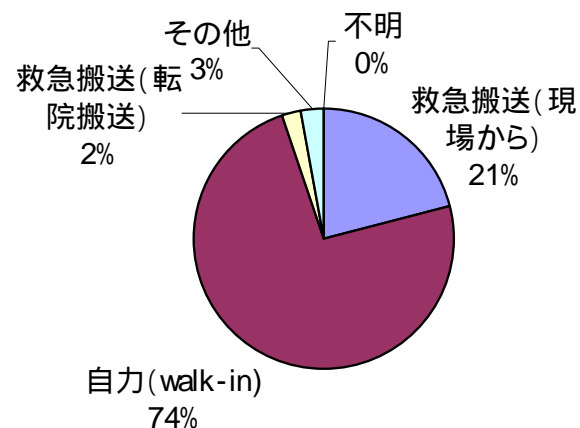
自力で来院(walk-in)の患者は、救急搬送患者の3.5倍



たぬま

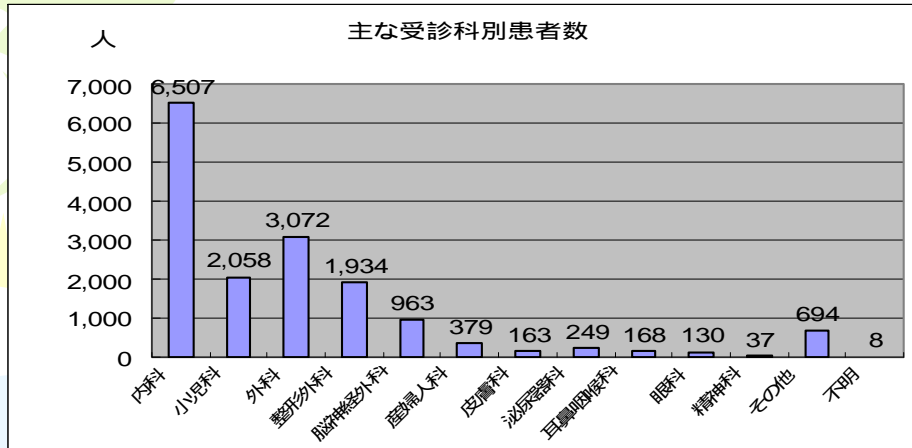
- ・自家用車等を利用し自力で来院する患者(walk-in)が、全体の7割以上を占め、救急搬送患者の約3.5倍に達している。

来院形態別患者比率



【主な受診科別患者数】

「内科」の受診患者が、約4割



患者の主な受診科では「内科」が最も多く、全体の約4割(39.7%)を占め、以下、「外科」、「小児科」、「整形外科」の順となっている。

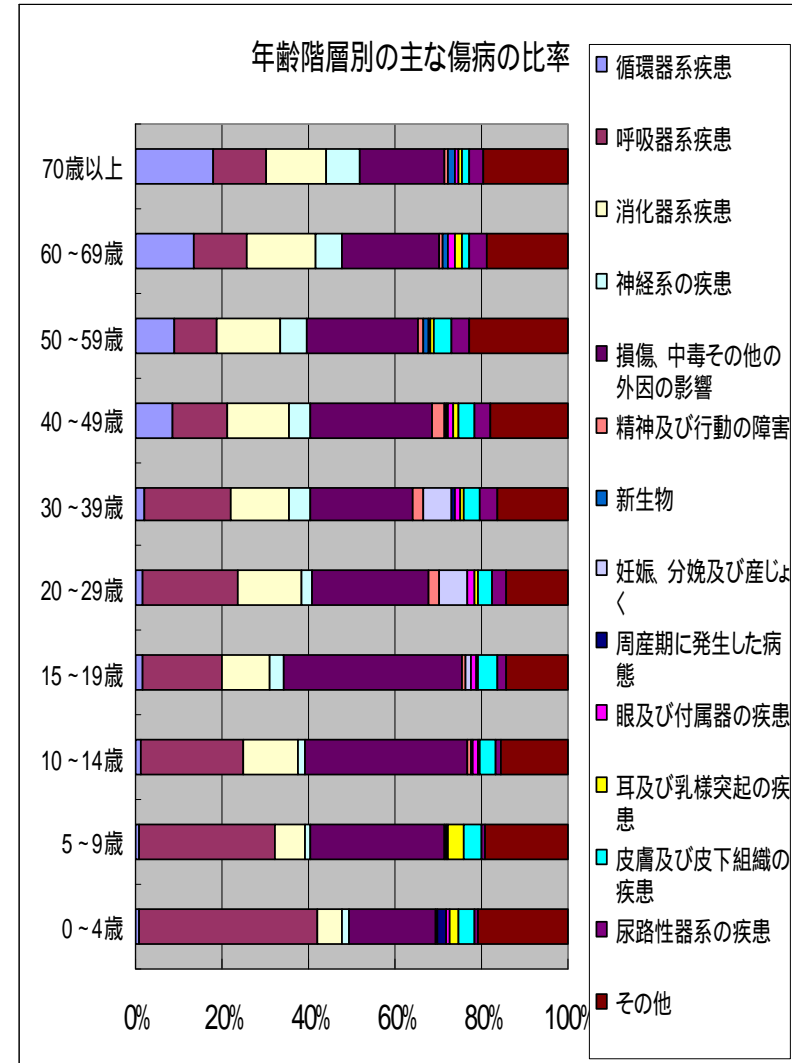
年齢が低い階層では「呼吸器系疾患」の患者の比率が比較的高く、40歳以上では年齢階層があがるにつれ、「循環器系疾患」の患者の比率が増加している。
また、10歳～19歳の層においては、「損傷 中毒その他の外因の影響」の患者の比率が比較的高い。



たかちゃん

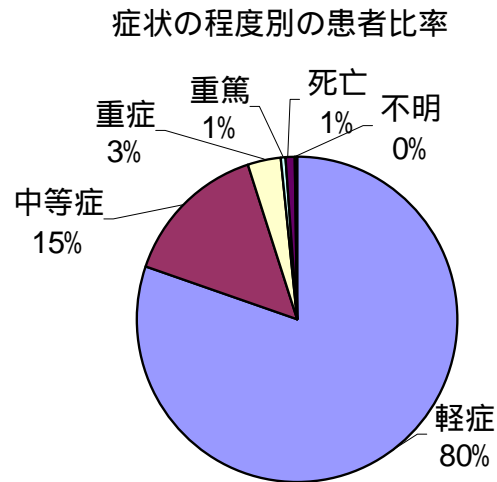
【年齢階層別の主な傷病】

低年齢層は「呼吸器系疾患」が多数



【症状の程度別患者比率】

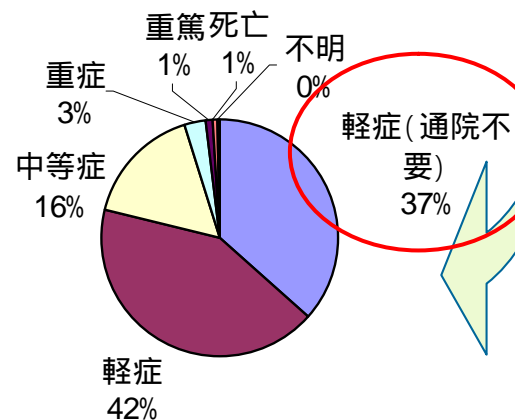
全体の8割が軽症患者



- 患者の症状の程度を、『消防統計』の基準で見ると、入院を要しない「軽症」患者が全体の8割を占めている。

- なお、生命の危険の可能性がある「重症」以上の患者の比率は、全体のわずか5%に過ぎない。

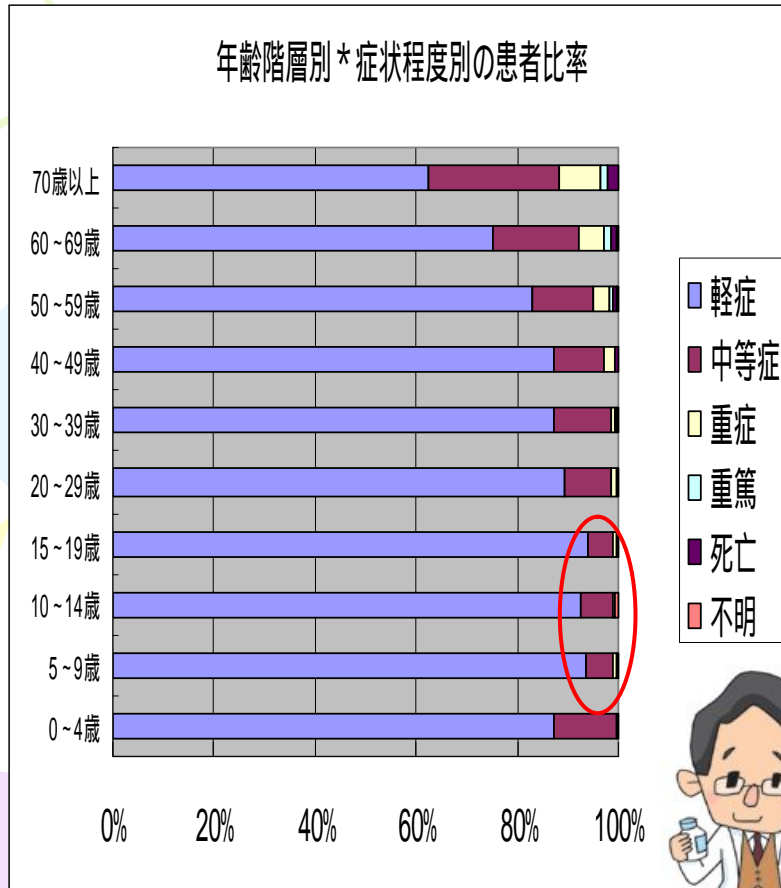
症状の程度別の患者比率(6段階)36機関



- さらに、「軽症」患者を、「通院加療」を要するか否かで更に細分化して回答していただいた36機関のデータを見ると「軽症」患者の約半分が、「通院加療」を要しない患者となっている。(全患者の37%)

【年齢階層別 * 症状の程度別患者比率】

年齢階層が低いほど「軽症」患者の比率が高い



つらなり

- ・ 5歳以上の年齢階層では、概ね、年齢階層が低いほど、「軽症」患者の比率が高くなっている。
- ・ 特に、5歳から19歳までの年齢層では、「軽症」患者の比率が9割を超えている。



マドンナ

【来院形態別 * 症状の程度別患者比率】

自力(walk-in)患者の9割が軽症患者

- ・ 「軽症」患者の比率は、救急車で現場から搬送される場合は52.9%であるが、自力(walk-in)での来院の場合は9割を超えている。(90.3%)

